

“学びをひろげる わたしと○人の会” 第21回研究会 報告

ワークショップ “堀智晴さんの道徳の授業”

2017年7月1日実施

小学校・中学校でこれまで「道徳の時間」として行われていた道徳教育が、2018年度から（中学校は2019年度）「特別の教科 道徳」となります。検定教科書が配布され、評価も求められます。

今回は「道徳の教科化」について考えることにしました。堀智晴さんに、参加者を生徒に見立てて道徳の授業をしていただきました。

◆教材「手品師」高学年（下記 URL をクリックして探してください 大阪府教育委員会提供）

<http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/9723/00000000/syougattkou2.pdf>

◆堀さんの指導案

堀さんが“学びの会”用に「道徳学習指導案」を準備してくださいました。その冒頭にこう書かれています—

「道徳の授業」の在り方について考える契機になればと思う。実際に道徳の授業をしてみても参加者で議論したい。○人の会の参加者をクラスの子どもに見立てて授業を試みる。はたしてどのような展開になることやら・・・。

昨年参観した授業の指導案には、次のような記述があった。そして、研究授業の前の学校の事前研では、道徳的価値（この教材は「誠実」）を子どもに身につけさせることを目的にすることにまとまったという。

「…手品師のような生き方に触れることで、小さなことでも真心を持って行うすがすがしさを感じ取り、手品師の根底にある誠実さに思いを寄せてほしい。そして、自分の信念を持ち、まわりに流されずにその信念を貫き、自分の良さを認めて行けるようになってほしいと願う。」

はたしてこのような価値観を子どもたちに身につけさせることができるのか、○人の会の参加者で議論したい。

3. 本時について

(1) ねらい<堀>

「手品師」を読んで、感想を交流する。この教材の「道徳の授業」における意味について議論する。時間の許す範囲で、「道徳の授業」について議論する。

(2) 本時の展開<堀>

学習活動	指導上の留意点	○評価基準
1. 資料「手品師」を声を出して読み、自分なりの考えを持つ。 ・手品師と同じようにする。 ・後で男の子にあやまる。 ・(後で) 劇場に招待する。 ○自分の感想を 1~2 行にまとめて板書する。自分の名前も書く。 ○他者の感想を読んで意見交換する。 ○参加者で話しあうテーマを考える。 ・道徳とは何か？ ・「道徳の授業」はどうあったらいいか？ ・「道徳の授業」の評価はどうすればいいか？ ・このような学校教育の状況をどう考え、それにどう対処していくか？ ○最後に、参加者で一言、感想・意見を述べる。	○堀センセイが授業を行う。 ○参加者は、子どもになったつもりで参加して下さい。 ○ありがとうございました。 (やはり、授業は難しい。)	○自分の意見を言えたか。 ○他者の意見に対して発言したか。 ○議論に参加したか。 ○「道徳の授業」について自分なりに考えたか。

◆ワークショップの展開

1. 資料「手品師」を各自声を出して読む。
2. 自分の感想をまとめて前のホワイトボードに書く。名前も書く。

※堀さんは授業でよくこの方法をとられるそうです。

3. 板書した感想を見ながら意見交流をしました。

〈参加者が書いた感想〉

- ・本当の話？ウソっぽい。
- ・友人の最後の言葉が気に入りました。
- ・すごくうそくさい！一杯のかけそばみたいで、子供に話したくないです。
- ・約束をすっぽかすこともできたのに、初めの約束を守ったんだ。
- ・男の子との約束を守った手品師。大劇場に出るチャンスはまた来ると思う。
- ・なんかイライラする！
- ・手品師の態度は人生に対して真剣でない。男の子との約束、いろんな方法が考えられ、後日実現。自分の人生、働くということに真剣誠実であれ。

〈感想をもとに交流〉

- ・授業自体が仕組みられている。こわい感じがする。
 - ・登場人物にリアリティーがない。子どもに読ませたくない。
 - ・悪い例として使えないか？
 - ・授業では作品をうのみにすることを前提にしている。
 - ・結論を出すのがおかしい。いろんな見方、考え方がある。
 - ・いろいろ議論をして、結論を決めずに進めることが大切。
4. いつものことながら、話はどんどんと広がって行きます。
- ・授業は恐ろしい。発言した以上（授業の狙いとなっている「答」を言葉にした以上）そういう生き方をするように、暗に強制されるのではないか。
 - ・「教材のねらい」がある。それは、誰かの目、仕組まれた目、仕組まれた構造 ⇔ 一方で、子どもが考えて発言するとき、そこにこそリアリティーがあり、値打ち、価値がある。
 - ・道徳の教科化を目指すものは、本当は「修身」を求めている。誰かがいつも目を光らせて狙っている。闇の中からだれが操作しているのだろうか、糸を引いているのだろうか。
 - ・道徳教育で何を教えるのかの根本的な議論がないから、徳目を教えてしまう。
 - ・フランス人は「人として当たり前のことをしましょう」と教える。そのためにどうするのか、何をすればよいのかを考える教育なら意味がある。
 - ・「自分の考えを持つ」ことを目的にする。
 - ・個人の確立、市民になるための教育。



